

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成25年度事前評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
新たに導入するセンサー無線システムの周波数有効利用のための周波数共用技術に関する技術的条件の検討	H25～26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種センサー無線システム(UWB、60GHz帯、RFID)と他の無線システムとの干渉検討、周波数共用の技術条件を策定する意義は高い。</li> <li>・毎年の計画と目標をより明確化(検討に優先順位をつけるなど)することが重要である。</li> <li>・技術基準の策定においては、国内だけではなく海外の状況にも目を向け、国際標準化を視野に入れた取り組みが必要である。</li> </ul>	4.2
狭域通信システム(DSRC)高度化技術に関する検討	H25～27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DSRCの高度化による安全性、利便性の向上は大いに期待されているところであり、技術基準の策定と早期の実用化が望まれる。</li> <li>・海外の動向を視野に入れたDSRCの見直しは重要なことである。</li> <li>・既存DSRCサービスの問題点を吟味すること。</li> </ul>	4.2
400MHz帯災害対策用可搬型無線システムの周波数有効利用技術に関する検討	H25～27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策用可搬型無線システム更改にあたり、種々の災害対策用途システムに使えるように技術的条件を明確化するのは妥当である。</li> <li>・詳細な仕様、干渉試験の対象、フィールド実験の場所等について具体性を追加する必要がある。</li> <li>・現行システムの更改に当たっては、新しいシステムの性能以上に重要となるコストについて検討を行うこと。</li> </ul>	3.6